

2. 収支見通しの状況

～ 多額な「赤字」と財政再建準用団体転落へ ～

平成17年度からの収支状況を見ると、依然歳入の大幅な伸びが期待できない現状において、これまでのような財政運営を行っていくと各年度に多額の収支不足が発生し、5年間の累計額では約81億円になります。一方、これらの財源不足を補てんするための基金の残高は、平成16年度末において財政調整基金が約10億円、公共施設等の整備のための基金が約9億円となっており、これらにより収支不足額を補てんするとしても、なお62億円の収支不足が生じることになります。

この結果平成17年度における標準財政規模を例にとると、本市の場合財政再建準用団体の基準となる赤字額が約28億円（標準財政規模の20%）となることから、このまま抜本的な行財政改革を行わなければ、平成19年度において基準となる赤字額を超え、平成20年には財政再建準用団体に陥るのは確実であるという厳しい見通しとなっています。

累積赤字見込み

